

# 白 神 通 信



白神山地のイヌワシ (2015年12月 八峰町にて 撮影：盛一樹)

## [contents]

- ◆ 粕毛林道沿線における特定外来生物オオハンゴンソウ駆除・・・・・・・・・・ P2
- ◆ 令和5年度第2回白神山地世界遺産地域合同パトロール（秋田県側）・・・・ P3
- ◆ 令和5年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議（秋田県側）・・・・・・ P4
- ◆ 藤里学園7年生が当センターを訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
- ◆ 能代高校二ツ井キャンパス校 植林体験・白神山地自然観察会・・・・・・・・ P5
- ◆ 獨協大学 岳岱遊歩道整備ボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
- ◆ 藤里町社会福祉協議会「まち自慢講座」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
- ◆ 藤里町民祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
- ◆ 東北森林管理局「森林・林業技術交流発表会」・・・・・・・・・・・・・・・・ P9

# 粕毛林道沿線における

## 特定外来生物オオハンゴンソウ駆除

令和5年8月26日(土)、白神山地の粕毛林道沿線において、繁殖力が強く、条件がよいと急激に拡がり在来の植物の生育を妨げるなど、地域の生物多様性が失われる恐れがあり、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの駆除作業を行いました。

残暑厳しい中、白神山地世界遺産地域巡視員、東北地方環境事務所西目屋自然保護官事務所、藤里自然保護官事務所、秋田県生活環境部自然保護課、東北森林管理局より、26名が参加しました。

まずは、東北地方環境事務所 藤里自然保護官事務所 原澤自然保護官より、オオハンゴンソウの生態や駆除方法をご指導いただいた後、4班に分かれて作業を行いました。

オオハンゴンソウは多年草で、開花している個体は発見が容易ですが、新芽から成長するに伴い形状が大きく変化するため、それぞれの成長過程を写した参考写真を見ながら、また根を残すとそこから再生してしまうため、花、葉、茎、根まで、徹底的な駆除を目標に作業を行いました。駆除したオオハンゴンソウは、こぼれ落ちないように土嚢袋に入れさらにビニール袋で包み、ごみ焼却場へ直接搬入し焼却処分しました。

徹底駆除を目標に作業したものの、地中に根だけ存在していたなど、発見できなかった個体があるかもしれませんし、新たな種子がヒトや動物により意図せずとも運び込まれることがあるかもしれません。今後とも、オオハンゴンソウの発見、駆除に努めてまいります。



種が落ちないように慎重に



葉や茎も残さず駆除



新芽や若葉も見逃しません



根まで掘り取り駆除

# 令和5年度第2回白神山地世界遺産地域 合同パトロール(秋田県側)

令和5年9月16日(土)、白神山地世界遺産地域巡視員、白神山地世界遺産地域連絡会議関係機関による、小岳コースの合同パトロールを実施しました。

9日(土)実施の予定が悪天候により延期となったこともあり参加者は当初予定より減少しましたが、巡視員、藤里町商工観光課、東北森林管理局から、19名が参加しました。

晴天の中実施したパトロールでは、遺産地域におけるごみの不法投棄や樹木の損傷等のマナー違反は確認されませんでした。また登山者へのマナー啓発パンフレットを配布しました。

合同パトロールは、入山者へのマナーの啓発に加え、世界自然遺産登録から30年を迎えた白神山地への世間の関心が薄れないよう、参加者に白神山地の価値と魅力、保全管理の大切さを伝え、次世代に繋いでいくことも目的の一つです。引き続き、年に数回実施してまいります。



巡視員 梅田リーダーから登山講義



藤里センター所長から巡視の大切さを講義



小岳山頂から白神山地を望む



下山時は旧登山道をパトロール

## 令和5年度第2回白神山地世界遺産地域 巡視員会議(秋田県側)

令和5年12月4日(月)、八峰町文化交流センター「ファガス」において、令和5年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)が開催され、巡視員19名、関係機関からは、主催した東北森林管理局、東北地方環境事務所西目屋自然保護官事務所、同藤里自然保護官事務所、秋田県自然保護課、秋田県教育委員会、八峰町産業振興課が出席しました。

会議では、各関係機関から令和5年度の主な事業実績として、入山者数調査やブナ林モニタリング調査、巡視活動、白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業等々の説明があり、その後、東北森林管理局から、巡視員による巡視活動の状況、合同パトロールの実施結果等について、東北地方環境事務所からは、令和4年度におけるニホンジカの生息状況の説明がありました。

意見交換会では、一般の方からの問い合わせがあった場合の紹介先の確認や、登山道の整備に関する意見のほか、複数の巡視員からニホンジカに関する質問があり、ニホンジカへの関心の高さがうかがえる会議となりました。



巡視員会議の様子

## 藤里学園7年生が当センターを訪問

令和5年9月20日(水)、藤里学園7年生15名が「ふるさと藤里を活性させるため(持続可能な藤里町を目指すため)に『人を集める』について考え、提案しよう」を学習テーマとした「町づくり学に関する聞き取り調査」のため、当センターを訪問しました。

まずは展示室において、男女別に2班に分かれ、白神山地が世界遺産に登録された経緯などの説明を受けた後、展示している昔の林業写真や道具類、白神山地周辺に咲く四季折々の草花の写真などを観察し、興味深かったのか熱心にノートを取る生徒もいました。

後半は実習室へ移動し、事前に質問があった6項目(1観光名所、2特産物のお弁当、

3川魚の生息数、4釣り目的の観光客数、5観光客に守ってほしいこと、6具体的な生態系保全のお仕事)について、当センター所長から私見を交えながら回答しました。30分という短い訪問時間でありましたが、生徒からは「今後の「町づくり学」の参考に役立ちます。今日はありがとうございました。」とのお礼の言葉をいただきました。



展示室にて様々な資料に基づいて学ぶ生徒



実習室にて生徒からの質問へ回答

## 能代高校ニツ井キャンパス校 植林体験・白神山地自然観察会

令和5年9月8日(金)、能代高校ニツ井キャンパス校の白神プロジェクトの一環として、植樹体験・白神山地自然観察会が行われ、1年生21名 3年生19名が参加しました。

午前中は、藤里町粕毛の民有林にて植樹体験です。NPO法人あきた白神の森倶楽部の武田英文さんから、天然スギやスギコンテナ苗の説明の後、ディブル(地面に苗木の植穴をあける道具)で植穴をあけ、スギコンテナ苗を100本植樹しました。



写真上：武田さんの説明を熱心に聞く



写真中：ディブルで植穴をあけ



写真右：スギコンテナ苗を植栽

白神プロジェクトでは、昨年まではブナを植えていましたが、スギも貴重な自然の一部であることを理解してもらうために、今年にはスギの苗木を植林しました。



写真上：スギコンテナ苗を手分けして運搬  
写真右：植林完了後に記念標柱を建てました



午後からは、岳岱自然観察教育林にて自然観察会です。生徒たちはガイドの説明を聞きながら、ブナ大木や倒伏した400年ブナ、ブナの若木などを観察し、スマホでの撮影に夢中になっていました。



ブナ大木の大きさに感動しスマホで撮影



ブナ老木の倒伏と若木の成長を学ぶ

今回参加された生徒の中から、将来、白神山地の保全に携わる人材が現れてくれることを願っています。

## 獨協大学 岳岱遊歩道整備ボランティア

獨協大学経済学部(埼玉県)国際環境経済学科のゼミナール「経済地理学(エコツーリズムと地域振興)」のテーマ、グリーンツーリズムやエコツーリズムの学習を通して、持続可能な

観光や産業のあり方を考えることの一環として、白神山地ゼミ合宿において、岳岱自然観察教育林内の歩道整備をボランティア活動として実施しました

8月31日には2年生21名、9月11日には3年生16名が参加しました。

学生たちは、岳岱入口でウッドチップを土のう袋に詰め、遊歩道や三蓋山ベンチ周辺にて、散策者が歩くルートを考えて上で地表に木の根が露出している場所を探し、根を保護するためウッドチップを敷き、丁寧に地ならししていました。

残暑厳しい中での慣れない作業に汗を流しながらも、友人たちと一緒に楽しそうに作業をしていました。

また、ガイドから白神山地やブナ林などについても学び、熱心に聞いていました。



ウッドチップを土のう袋に詰め



保護すべき根を探して



地表に露出した根にチップを撒いて



丁寧に地ならしました



ガイドの説明も熱心に聞きます



ボランティア作業完了 いい笑顔です

## 藤里町社会福祉協議会「まち自慢講座」

令和5年10月18日(水)及び26日(木)、藤里町社会福祉協議会の「まち自慢クラブ」の活動として、当センターにおいて「まち自慢講座：世界遺産 白神山地を守るために」を開催しました。

まち自慢クラブとは、藤里町民が記憶や経験を語り合い、学び合いながら、藤里町の魅力を再発見し、それを発信していくクラブとのことでした。

今回は、白神山地で藤里町を自慢しようとの趣旨でしたので、白神山地世界遺産地域(秋田県側)の本流は粕毛川であること、藤里町内の白神山地には世界遺産地域のほかにも岳岱や藤里駒ヶ岳、田苗代湿原、太良峡など、素晴らしい観光スポットもありますよ、自慢できますよ、と説明しました。

併せて、白神山地世界自然遺産登録の経緯と、白神山地巡視員や当センターを含む白神山地関係機関の皆さんが、白神山地を守るためにどのようなことを行っているかについても説明しました。

参加者の皆さんは藤里町民とのことでしたが、意外と白神山地のことを詳しく知らなかったようで、白神山地を自慢する良いきっかけになったかと考えています。



白神山地と藤里町の自慢できることを説明

## 藤里町民祭

令和5年10月29日(日)、藤里町の町民体育館周辺エリアにて開催された「藤里町民祭 2023 遺産登録30周年記念スペシャル」に当センターも出展参加しました。

藤里町内の各団体等の出し物や、藤里町出身のお笑い芸人によるお笑いライブ、プロレス興行も行われ熱気に包まれる会場で、白神山地で撮影された動植物の写真を展示し、木工体験コーナーと缶バッジ作成コーナーを展開しました。訪れた子どもたちには白神山地の生きものや植物の写真をバッジにできる缶バッジ製作が大人気で、順番待ちが発生し、お祭り後半には材料が底をついてしまいました。



熱気に包まれる藤里町民祭会場



岳バッチというカタチであっても子どもたちが白神山地に触れるのは良いことで、次回の藤里町民祭 2024 には岳バッチの材料を増やして参加しなければ、と感じたところです。



大人気の岳バッチ製作コーナー



こちらも人気の木工体験コーナー

## 東北森林管理局 森林・林業技術交流発表会

東北森林管理局が主催する森林・林業技術交流発表会とは、森林・林業・木材産業の活性化等を推進するための諸課題に対する取組（例えば、林業の低コスト化、森林病虫害対策、新たな土木工事工法など）の情報提供、意見交換等を行い、関係者の技術の普及、向上及び交流の推進に寄与することを目的として、民有林、国有林の関係者等が一堂に会して毎年行われています。

今年度は令和6年1月31日から令和6年2月1日にかけて開催され、当センターからは、

- ① 秋田白神ガイド協会・白神山地世界遺産センター藤里館と協働で進めてきた白神山地岳岱自然観察教育林の更なるPR
- ② 白神山地周辺のニホンジカ低密度生息地域における捕獲に結びつけるためのニホンジカ誘因実験

の2課題を発表しました。以下、その概要を記載します。

- ① 白神山地の魅力を伝え続けるために ～<sup>だけだ</sup>岳岱自然観察教育林の更なるPRの取組～  
藤里森林生態系保全センター（盛一樹）・秋田白神ガイド協会（斎藤栄作美・畠山明）・白神山地世界遺産センター藤里館（白鳥万里）

岳岱自然観察教育林（以下、岳岱という。）を紹介する際、ガイド等関係者は揃って「白神山地世界自然遺産地域（以下、遺産地域という。）の原生的なブナ林を疑似体験できる場所」と説明しますが、遺産地域は青森県側の暗門エリア以外は急峻な地形で容易には入山できないことから、遺産地域と岳岱の林分構造を調査、比較し、可視情報化（見える化）することとしました。

遺産地域の林分構造データは、令和2年度秋田固定調査区の毎木調査データを活用

しました。岳岱は、ブナ二次林及びスギ人工林を除いた遊歩道周辺において0.726haの調査区を設定し、樹種、胸高直径及び樹高の毎木調査を実施しました。それぞれのデータを1haあたりに換算した上で、種数、優占種、径級クラス別本数を比較しました。

その結果、高木性、低木性を含めた木本の種数では、岳岱が15種、遺産地域が17種と、木本における多様性には目立つ差が見られませんでした。

次に、クロモジ等の低木種を除いた高木性樹種の本数比率を図-1に示します。岳岱はブナが77.4%、その他の樹種はすべて10%以下、遺産地域はブナが60.1%、その他の樹種はほぼ10%以下と、岳岱、遺産地域ともにブナが圧倒的な優占種でした。

続いて、おおむね樹冠層を形成すると考えられる胸高直径30cm以上のブナの径級階別本数を図-2に示します。岳岱、遺産地域ともに40～50cmを最大とし、80cmを超える大木も存在する、類似した分布傾向を示しました。

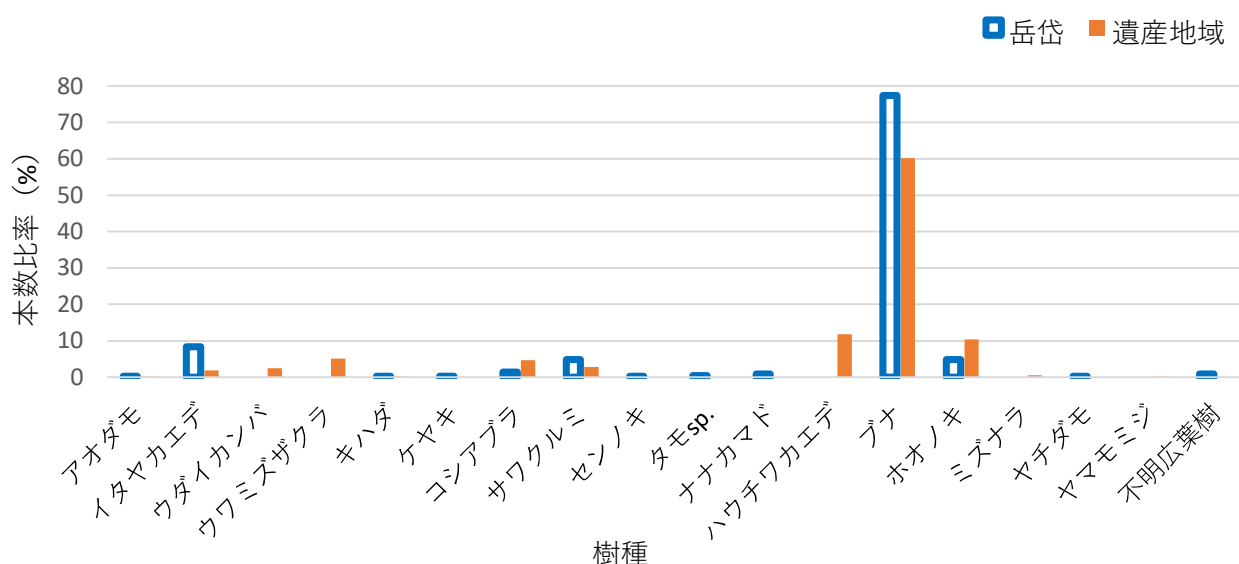


図-1 高木性樹種の本数比率

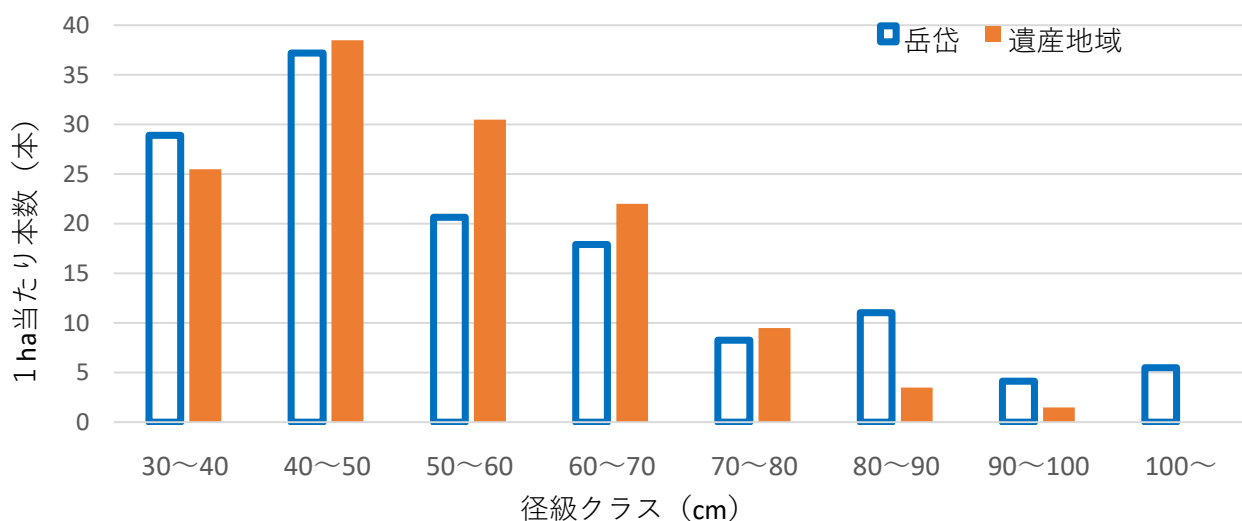


図-2 胸高直径30cm上ブナ径級クラス別1haあたり本数

今回の調査で、岳岱は遺産地域に負けず劣らずの原生的ブナ林であることが数値的に示されました。また岳岱は、大館能代空港からレンタカーで80分と遠方からのアクセスも良好で、トイレや遊歩道、休憩施設も完備され、平坦な地形によりシニアの方や小さな子どもでも気軽に散策できます。

岳岱に来て、見て、感じて、白神山地世界遺産地域は、岳岱のような原生的ブナ林が約1万7千ヘクタールと世界最大級の規模で分布していることが評価され、日本で初めての世界自然遺産に登録されたんだなあ、思いを巡らせてみませんか。

② ニホンジカの鳴声はニホンジカを呼び寄せるのか？ ～咆哮データを用いた低密度分布域における検証～ 藤里森林生態系保全センター(盛一樹)・米代西部森林管理署(三塚若菜)

世界自然遺産地域を含む白神山地周辺では、近年、ニホンジカ(以下、シカという。)の目撃件数に増加傾向がみられています。現時点では比較的低密度分布域と考えられますが、シカの食害により白神山地の豊かな森林生態系に悪影響を及ぼしかねず、また、世界遺産地域科学委員会でも「効果的な捕獲の試行を」との意見もあり、低密度分布域におけるワナ等による効率的な捕獲に繋げるためのシカ誘引実験に取り組みました。

白神山地周辺地域(秋田県側)にある粕毛林道で、令和5年5月下旬～11月上旬の間、自動撮影センサーカメラを6地点に設置しました。内2地点はセンサーカメラのみの対照地a・bとし、4地点は、シカ繁殖期とされる9月下旬～11月上旬の間、繁殖期にオスジカが発し「howl(ハウル)」および「moan(モウン)」と称される2種類の咆哮データを小型スピーカーで再生(再生地a～d)しました。実験終了後、センサーカメラ撮影画像の解析により、シカの出現状況を調査しました。

その結果を表-1に示します。

シカが撮影されたのは3地点、対照地aで8回(♂5 ♀2 不明1)、再生地aで7回(♂6 不明1)、再生地bで1回(♂)でした。

撮影時期は、対照地aでは繁殖期前に5回で繁殖期に3回、再生地aでは繁殖期前に撮影されず繁殖期に7回、再生地bでは繁殖期前に1回でした。

考察として、咆哮データを再生しない対照地aで撮影回数が多かったのは、性別及び撮影時期がばらついていることと、6地点の中で唯一、枝下高3m程度のシカが身を隠すのに適した約2.6haの若齢スギ林が隣接していることから、他県等の高密度地域から移動、侵入してきたシカが日頃利用し付近に滞在している可能性が考えられました。一方、再生地aで撮影回数が多かったのは、撮影された7回が全てスピーカー再生期間中であったことと、性別不明(頭部が写っていないため不明としたものの体色からは繁殖期のオスに見える)1個体を除きすべてオスであったこと、また採食することもなく20分弱の間再生地a付近を徘徊し「その場所に執着」しているらしい様子が撮影されたことから、スピーカーから発せられる咆哮にオスジカが反応を示し、呼び寄せられた可能性が示唆されました。

表-1 実験地点ごとのシカ出現状況

カテゴリ	地点名	スピーカー稼働期間 前・中	撮影年月日	性別	採食行動	時間（時：分：秒）		
						画角内滞在	（初回撮影）	（最終撮影）
moan①	内川作業道	中	2023-10-07	♂	なし	0:00:02	14:46:34	14:46:36
			2023-10-10	♂	なし	0:00:22	13:32:24	13:32:46
			2023-10-11	♂	なし	0:00:36	16:39:24	16:40:00
				♂	なし	0:01:36	16:48:50	16:50:26
				♂	なし	0:00:01	16:58:38	16:58:39
			2023-10-22	♂	なし	0:00:02	12:44:40	12:44:42
			2023-10-31	不明	不明	0:00:01	13:17:26	13:17:27
対照地②	清五郎沢	前	2023-05-25	♂	なし	0:00:33	19:12:15	19:12:48
			2023-07-22	♂	なし	0:00:01	7:39:14	7:39:15
			2023-09-01	♀	有	0:00:45	7:23:13	7:23:58
			2023-09-23	♀	なし	0:00:10	18:11:05	18:11:15
			2023-09-25	♂	なし	0:00:27	5:41:45	5:42:12
		中	2023-10-18	♂	なし	0:00:10	3:14:53	3:15:03
				♂	有	0:00:10	20:26:15	20:26:25
			2023-10-25	不明	なし	0:00:11	5:45:27	5:45:38
moan②	逆又沢	前	2023-06-18	♂	なし	0:00:01	8:16:42	8:16:43

シカ低密度分布域での捕獲は、その個体の発見さえ容易ではなく、何らかの方法で誘引して捕獲するのが効率的です。

シカが視覚あるいは嗅覚で感知しないと存在に気付かない給餌法に比較して、本研究の手法では遠くまで音声が届くため、より広範囲のシカを誘引し、くくりわな等捕獲器具やシャープシューティングとの組み合わせにより、シカの低密度分布域における効率的な捕獲になることが期待されます。

また、低密度地域であるがゆえにサンプル数が多くありませんでしたが、より多くのサンプルが集められるであろう高密度地域で検証を行っても、発情期に四方から咆哮が響き渡る高密度地域の結果が低密度地域でも適用できるとは限らないと考えられます。したがって、引き続き低密度地域における誘引効果の検証を行う必要があります。



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL: 0185-79-1003

「白神通信」QRコードはコチラ →

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>



東北森林管理局広報  
「みどりの東北」  
QRコードはコチラ →



藤里森林生態系保全センター  
ホームページ QRコードはコチラ →

